

平成 23 年社会生活基本調査

和歌山県の結果概要

= 生活時間に関する結果 =

— 調査の概要 —

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とし、昭和 51 年の第 1 回調査以来 5 年ごとに総務省統計局が実施しています。

平成 23 年社会生活基本調査は、全国の世帯から無作為に選定された調査区に居住する 10 歳以上の世帯員（本県では約 1,500 世帯、約 3,700 名）を対象に、平成 23 年 10 月 20 日現在で実施されました。

本資料は、総務省統計局が公表した調査結果から、和歌山県の結果をまとめたものです。

— 利用上の注意 —

- 1 統計表の数字は表章単位未満で四捨五入しており、総数に分類不能、不詳を含むため、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 2 増減及び増減率、構成比等の比率は、表章単位の数字から算出している。
- 3 統計表中「0」、「0.0」は、集計した数値が表章単位に満たないものである。
- 4 統計表中「-」は、該当数字のない箇所である。

— 目次 —

1	1日の生活時間の配分	2
2	1次活動時間	5
3	2次活動時間	6
4	3次活動時間	7
5	各種属性別にみた生活時間	8

— 主な用語 —

○1次活動

睡眠、食事など生理的に必要な活動

○2次活動

仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な生活の強い活動

○3次活動

1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

○総平均時間

該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均

1 1日の生活時間の配分

1次活動及び3次活動は増加、2次活動は減少

10歳以上の人について、1日の生活時間（週全体平均。以下「週全体」）をみると、1次活動時間が10時間50分、2次活動時間が6時間37分、3次活動時間が6時間33分となっている。平成18年と比べると、1次活動は3分の増加、2次活動は13分の減少、3次活動は10分の増加となっている。

男女別にみると、1次活動時間及び2次活動時間は女性の方が長く、3次活動時間は男性の方が長い。総平均時間の男女差を平成18年と比べると、1次活動時間は4分から7分差に、2次活動時間は22分差から40分差に、3次活動時間は26分差から48分差になっており、すべての活動時間で男女差が拡大している。

表1-1 男女、行動の種類別総平均時間（平成18年、23年）－週全体

（時間.分）

	総数			男			女		
	H18	H23	増減	H18	H23	増減	H18	H23	増減
1次活動	10.47	10.50	0.03	10.45	10.46	0.01	10.49	10.53	0.04
睡眠	7.50	7.50	0.00	7.59	8.02	0.03	7.43	7.39	-0.04
身の回りの用事	1.17	1.22	0.05	1.07	1.09	0.02	1.26	1.34	0.08
食事	1.40	1.37	-0.03	1.38	1.34	-0.04	1.41	1.40	-0.01
2次活動	6.50	6.37	-0.13	6.38	6.16	-0.22	7.00	6.56	-0.04
通勤・通学	0.26	0.25	-0.01	0.34	0.33	-0.01	0.18	0.18	0.00
仕事	3.35	3.18	-0.17	4.53	4.31	-0.22	2.25	2.12	-0.13
学業	0.32	0.36	0.04	0.35	0.35	0.00	0.29	0.36	0.07
家事	1.38	1.38	0.00	0.18	0.18	0.00	2.50	2.48	-0.02
介護・看護	0.04	0.04	0.00	0.02	0.01	-0.01	0.06	0.06	0.00
育児	0.12	0.13	0.01	0.04	0.03	-0.01	0.19	0.22	0.03
買い物	0.23	0.24	0.01	0.13	0.14	0.01	0.32	0.33	0.01
3次活動	6.23	6.33	0.10	6.37	6.59	0.22	6.11	6.11	0.00
移動(通勤・通学を除く)	0.27	0.27	0.00	0.24	0.26	0.02	0.30	0.28	-0.02
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.34	2.36	0.02	2.44	2.44	0.00	2.25	2.30	0.05
休養・くつろぎ	1.27	1.30	0.03	1.25	1.32	0.07	1.28	1.29	0.01
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.12	0.10	-0.02	0.13	0.11	-0.02	0.12	0.08	-0.04
趣味・娯楽	0.39	0.43	0.04	0.47	0.50	0.03	0.32	0.36	0.04
スポーツ	0.14	0.15	0.01	0.18	0.20	0.02	0.10	0.10	0.00
ボランティア活動・社会参加活動	0.05	0.04	-0.01	0.05	0.05	0.00	0.04	0.03	-0.01
交際・付き合い	0.20	0.19	-0.01	0.19	0.20	0.01	0.22	0.18	-0.04
受診・療養	0.09	0.10	0.01	0.07	0.10	0.03	0.11	0.10	-0.01
その他	0.16	0.20	0.04	0.14	0.21	0.07	0.17	0.19	0.02
(再掲)									
家事関連 1)	1.77	1.79	0.02	0.37	0.36	-0.01	3.07	3.09	0.02
休養等自由時間活動 2)	3.61	3.66	0.05	3.69	3.76	0.07	3.53	3.59	0.06
積極的自由時間活動 3)	0.70	0.72	0.02	0.83	0.86	0.03	0.58	0.57	-0.01

1) 家事、介護・看護、育児及び買い物

2) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

3) 学習・自己啓発・訓練(学業以外)、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

生活時間を曜日別にみると、1次及び3次活動時間は日曜日が最も長く、2次活動時間は平日が最も長くなっている。2次活動時間をもっとも長い平日ともっとも短い日曜日で比べると、男性は3時間55分、女性は2時間26分の減少となり、男性の方が女性よりも2次活動時間が短くなっている。

平成18年と比べると、すべての曜日で2次活動時間が減少し、3次活動時間が増加している。男女別にみると、特に、平日における男性の2次活動時間が減少し、3次活動時間が増加している。

表1-2 男女、行動の種類、曜日別生活時間（平成18年、23年）

(時間.分)

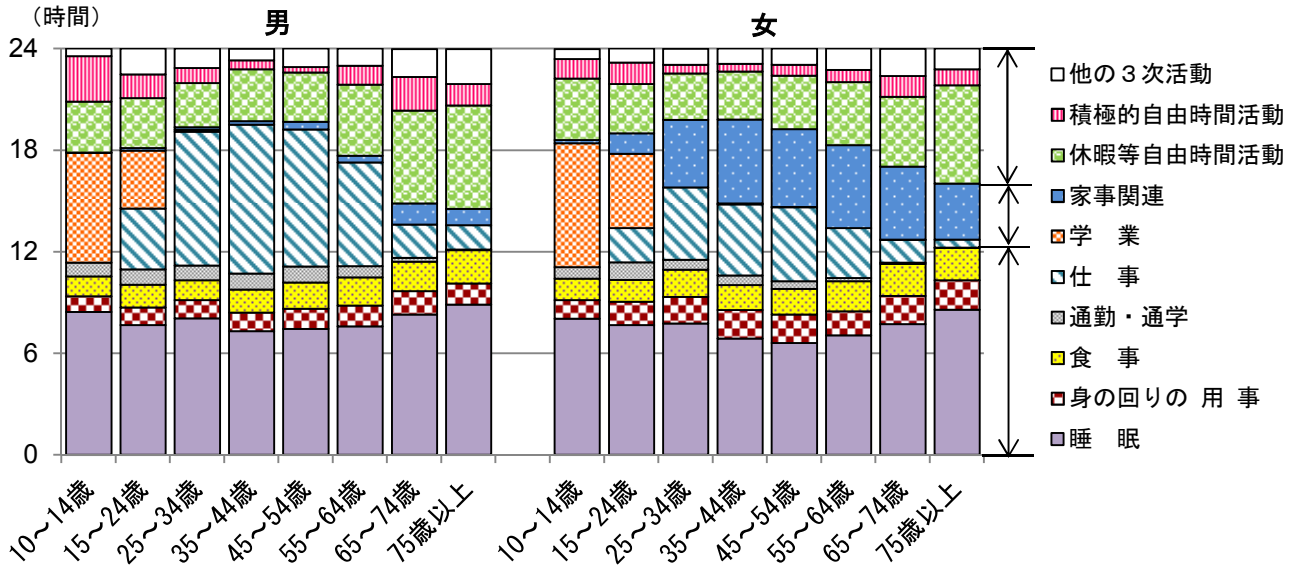
		平成18年			平成23年			差(H23-H18)		
		平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日
総数	1次活動	10.36	11.00	11.28	10.40	11.04	11.25	0.04	0.04	-0.03
	2次活動	7.37	5.29	4.13	7.24	5.11	4.10	-0.13	-0.18	-0.03
	3次活動	5.46	7.31	8.19	5.57	7.45	8.24	0.11	0.14	0.05
男	1次活動	10.34	10.54	11.28	10.35	10.57	11.26	0.01	0.03	-0.02
	2次活動	7.38	5.03	3.15	7.10	4.43	3.15	-0.28	-0.20	0.00
	3次活動	5.47	8.04	9.17	6.14	8.20	9.19	0.27	0.16	0.02
女	1次活動	10.38	11.06	11.27	10.43	11.10	11.25	0.05	0.04	-0.02
	2次活動	7.36	5.52	5.05	7.25	5.36	4.59	-0.11	-0.16	-0.06
	3次活動	5.46	7.01	7.28	5.41	7.14	7.36	-0.05	0.13	0.08

生活時間を曜日別、男女別、年齢階級別にみると、すべての年齢階級で2次活動時間は平日が最も長くなっており、男性は平日よりも土曜日、日曜日に家事関連時間が微増しているが、女性の家事関連時間は曜日に関係なく長くなっている。

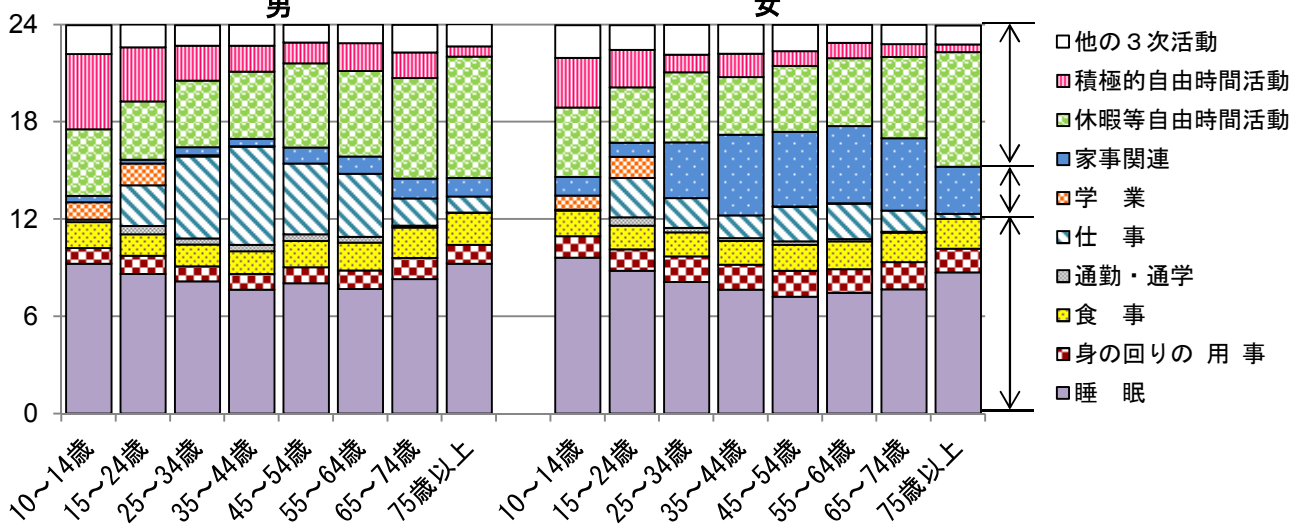
10~24歳では、他の年齢階級に比べ、土曜日と日曜日の積極的自由時間活動の時間が大きくなっており、75歳以上では、男女とも曜日ごとの時間の使い方に他の年齢階級ほど大きな差は見られない。

図 1-1 曜日、男女、年齢階級、行動の種類別生活時間

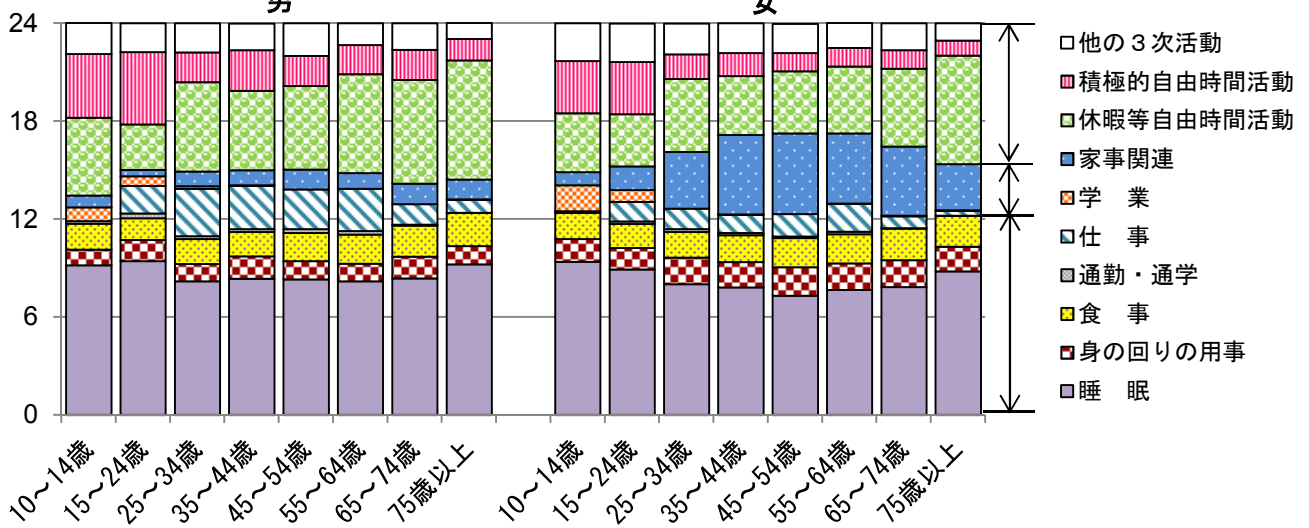
<平日>



<土曜日>



<日曜日>



2 1次活動

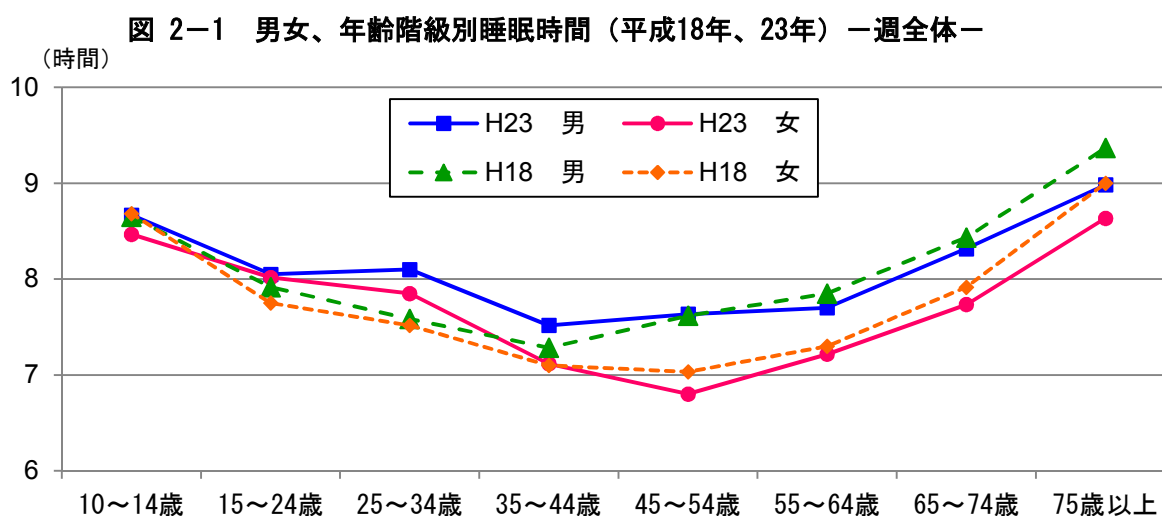
(1) 睡眠

10歳以上の人の睡眠時間（週全体）は7時間50分で、男性が8時間2分、女性が7時間39分と、男性が女性より23分長くなっている。

平成18年と比べると、男性は3分増加、女性は4分減少している。

年齢階級別にみると、男性は35～44歳、女性は45～54歳で最も短くなっている。また、男女とも44歳以下で睡眠時間が増加しており、55歳以上で減少している。

男女別にみると、女性の睡眠時間はすべての年齢階級で男性より短く、特に45～54歳では最も差が大きく、50分短くなっている。



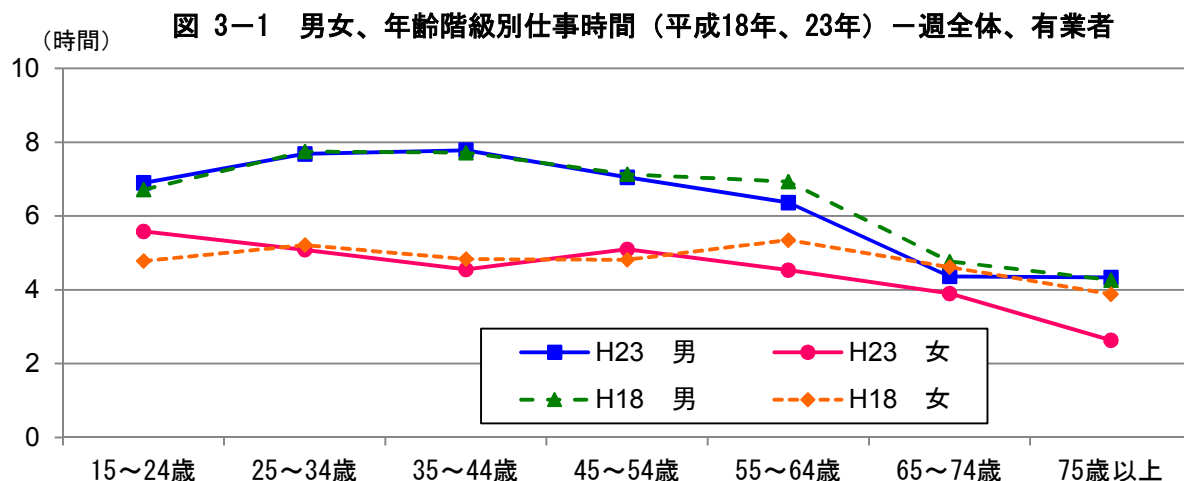
3 2次活動

(1) 仕事

有業者（15歳以上、以下同じ。）の1日の仕事時間（週全体）は5時間49分で、男性が6時間45分、女性が4時間38分となっている。

年齢階級別にみると、男性は35～44歳で、女性は15～24歳で最も長くなっている。

平成18年と比べると、男性は15分、女性は22分減少している。特に、女性は55歳以上で大きく減少している。

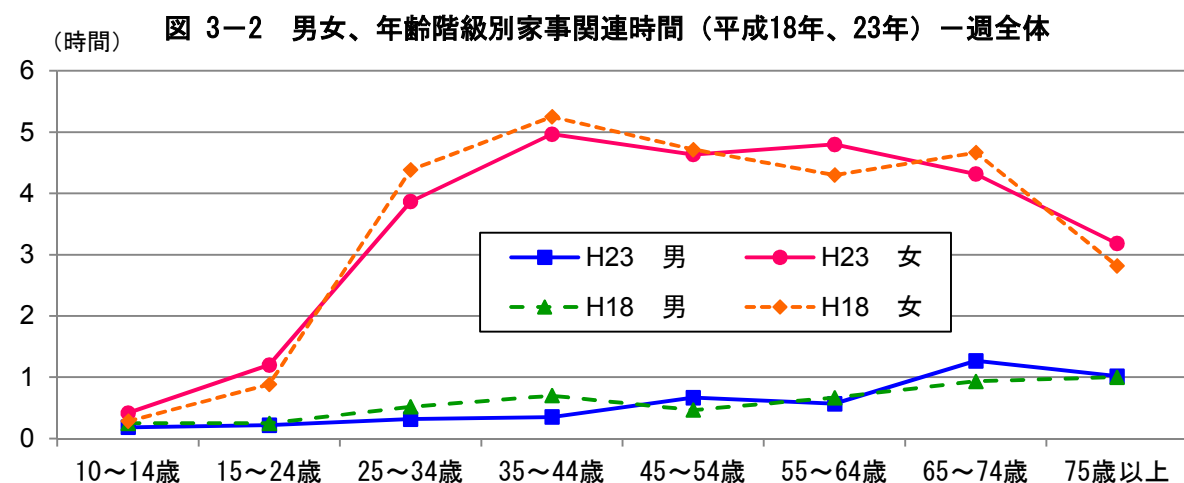


(2) 家事関連時間

10歳以上の人の家事関連時間（家事、介護・看護、育児、買い物の合計時間、週全体）は2時間19分、男性は36分、女性は3時間49分となっている。

年齢階級別にみると、男性は65～74歳で、女性は35～44歳で最も長くなっている。

平成18年と比べると、男性は1分減少、女性は2分増加しており、男女差は3分拡大している。

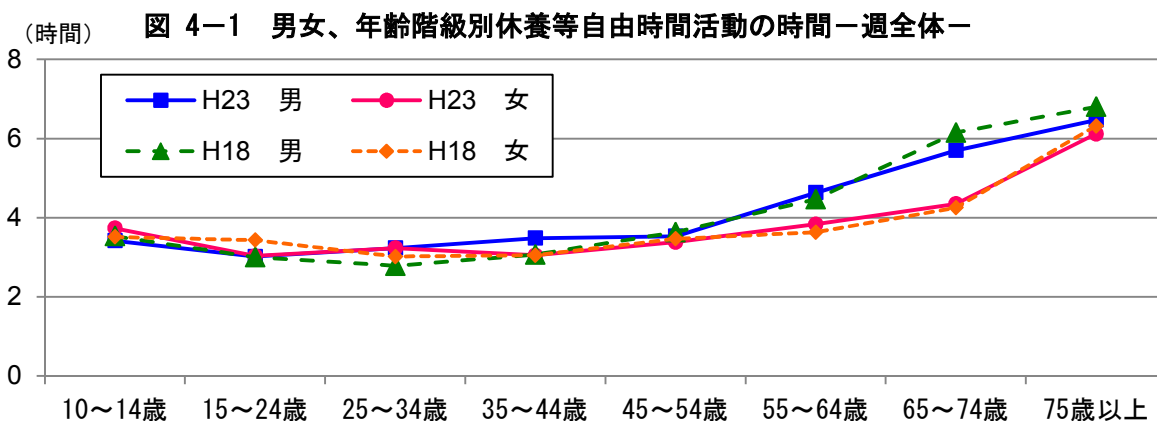


4 3次活動

(1) 休養等自由時間活動

10歳以上の人の「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」及び「休養・くつろぎ」の合計時間（週全体）は4時間6分、男性は4時間16分、女性は3時間59分となっている。

年齢階級別にみると、55歳以上から長くなる傾向がある。男女別にみると、55歳以上で男性の方が女性より長くなっており、特に、65～74歳では、男性の方が1時間21分長い。

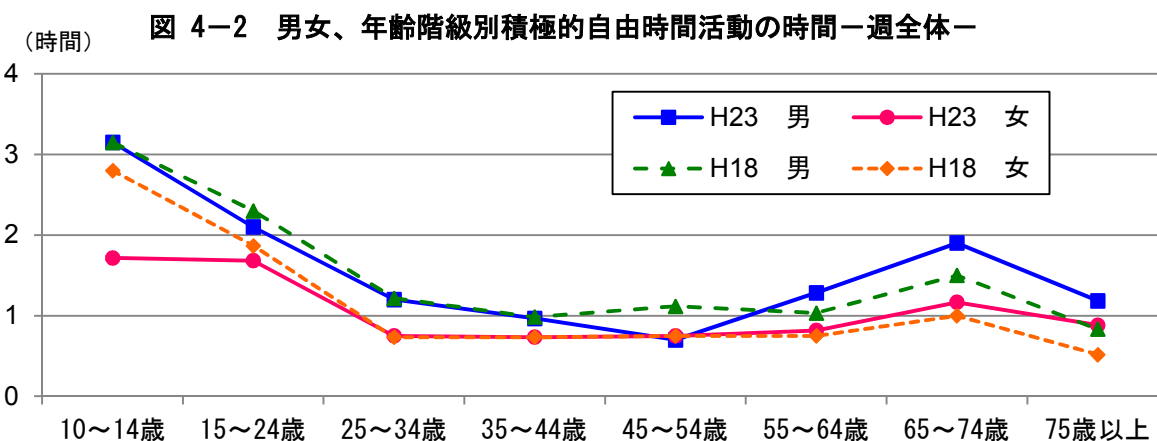


(2) 積極的自由時間活動

10歳以上の人の「学習・自己啓発・訓練」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」及び「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間（週全体）は1時間12分、男性は1時間26分、女性は57分となっている。

年齢階級別にみると、10～14歳が最も長く、男性は3時間9分、女性は1時間33分で、45～54歳を除き、男性の方が女性より長くなっている。

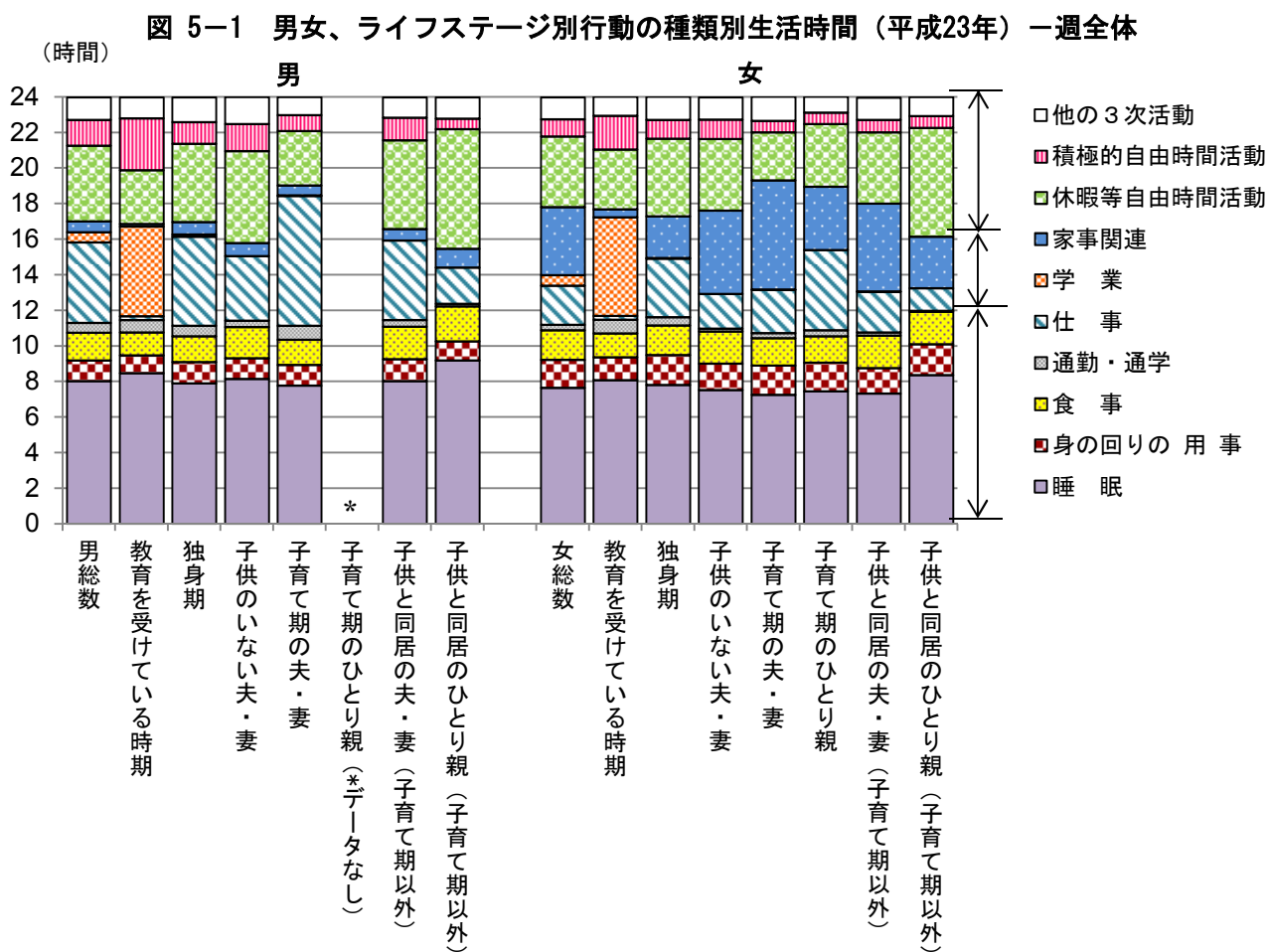
平成18年と比べると、男女とも55歳以上で活動時間が長くなっている。



5 各種属性別にみた生活時間

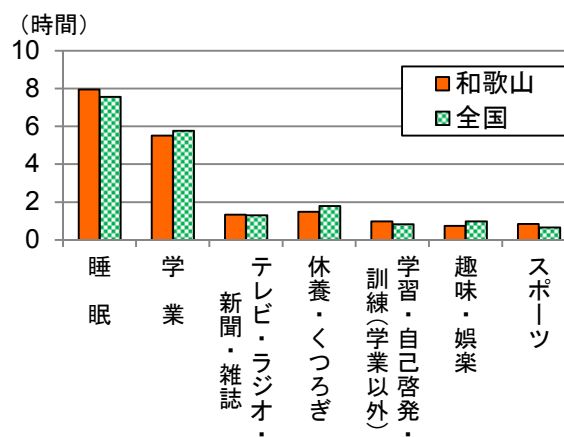
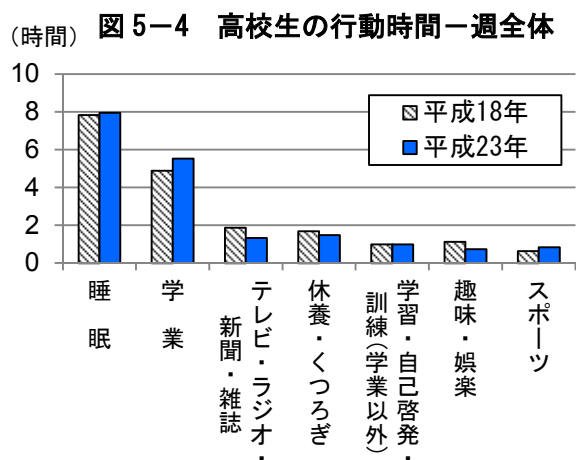
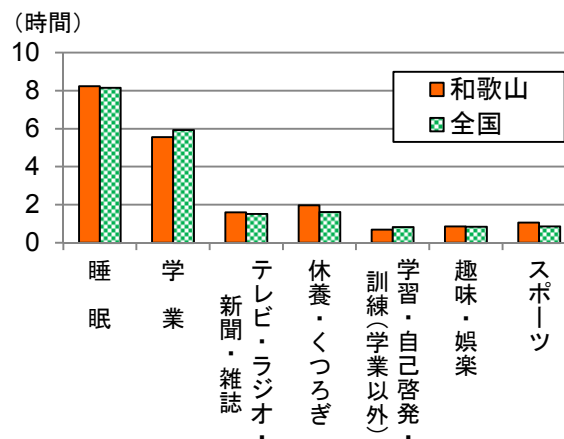
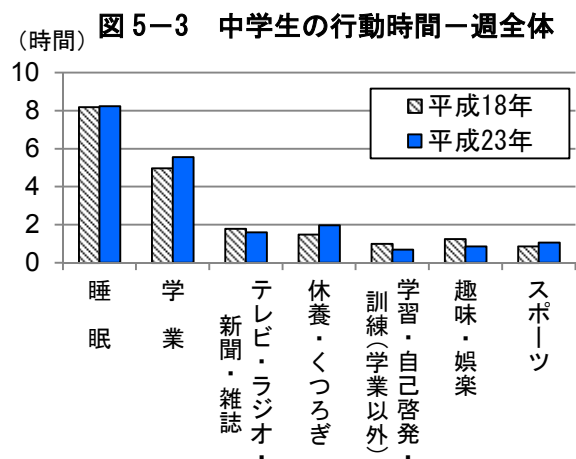
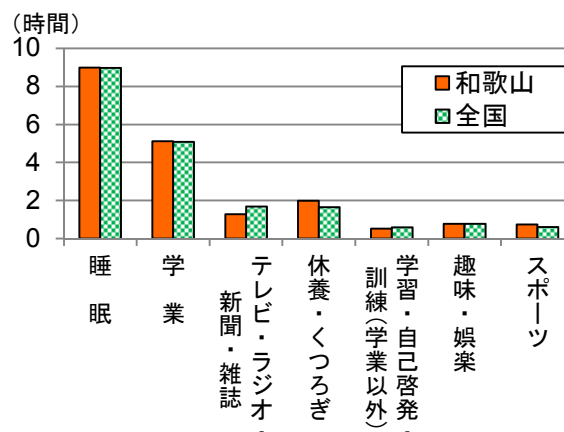
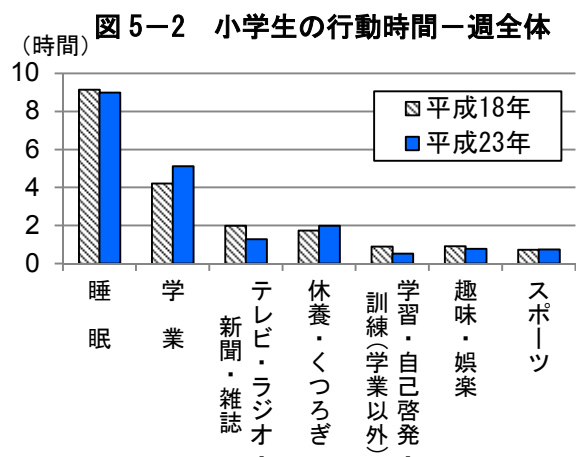
(1) ライフステージ

男女のライフステージ別に生活時間をみると、教育を受けている時期は男女間に大きな差はないが、その他のライフステージでは、男性は女性よりも仕事時間が長く、女性は家事時間が長くなっている。子育て期に、男性は最も仕事時間が長く、女性は育児を含む家事関連時間が最も長くなっている。なお、子育て期のひとり親の女性は、夫がいる女性よりも仕事時間が2時間5分長くなっている。



(2) 在学生

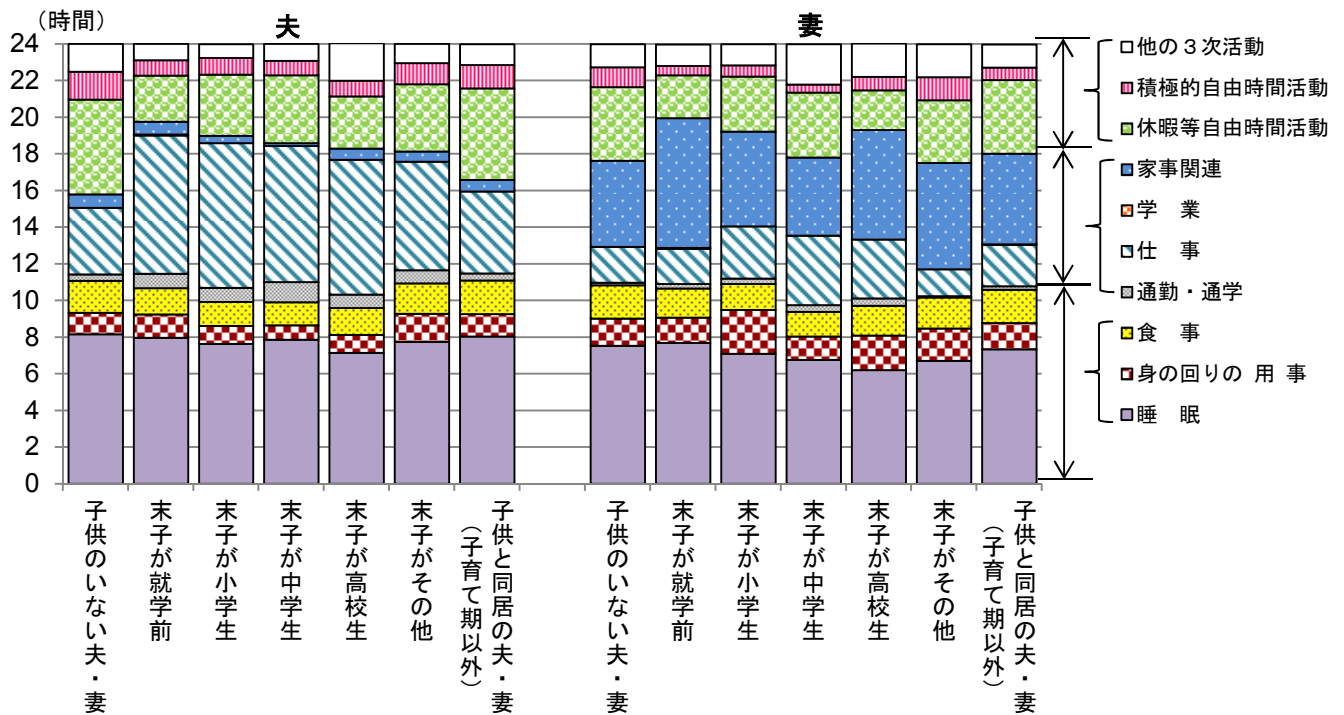
小学校、中学校、高校に通う学生の生活時間（週全体）を平成18年と比べると、「学業」時間は、小学生で54分、中学生で35分、高校生で38分増加しており、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」や「趣味・娯楽」の時間は減少している。全国と比べると、いずれも「スポーツ」の時間が長く、中学生、高校生では「学業」時間が短い。



(3) 世帯（夫・妻、単身者）

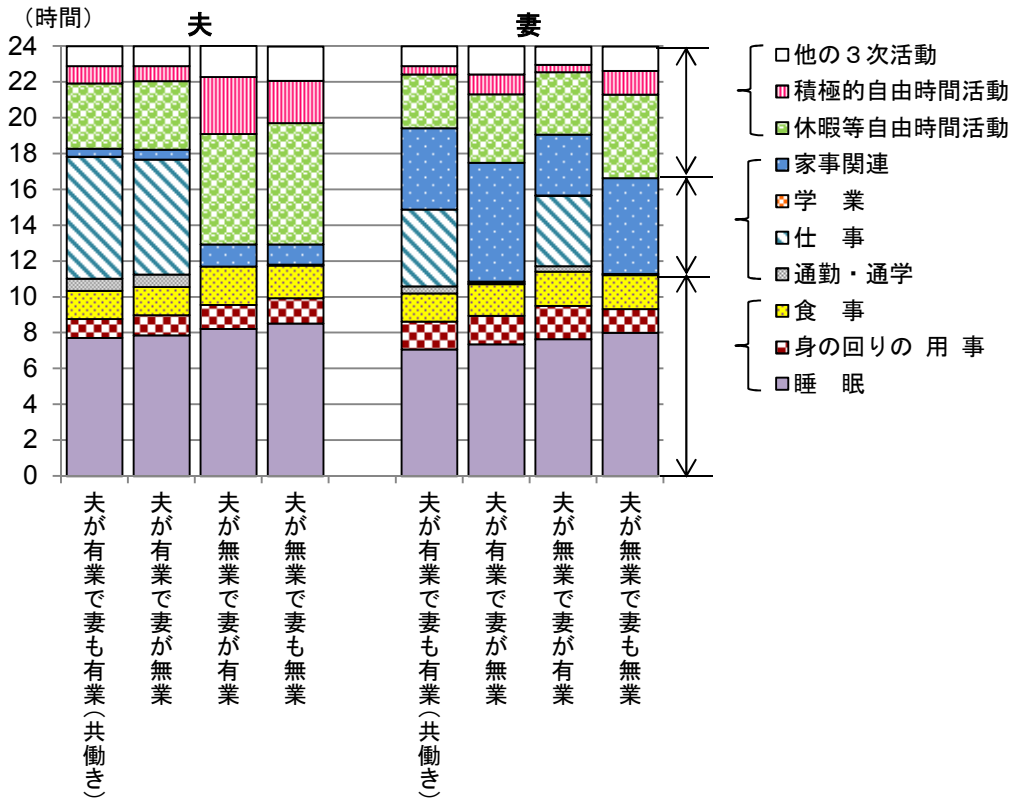
同一世帯の夫と妻の生活時間（週全体）をライフステージ別にみると、末子の成長と夫の仕事時間との関連性はあまり見られないが、妻では、末子の成長とともに家事関連時間は減少し、仕事時間は増加する傾向にある。

図 5-5 ライフステージ別行動の種類別生活時間（夫・妻）－週全体



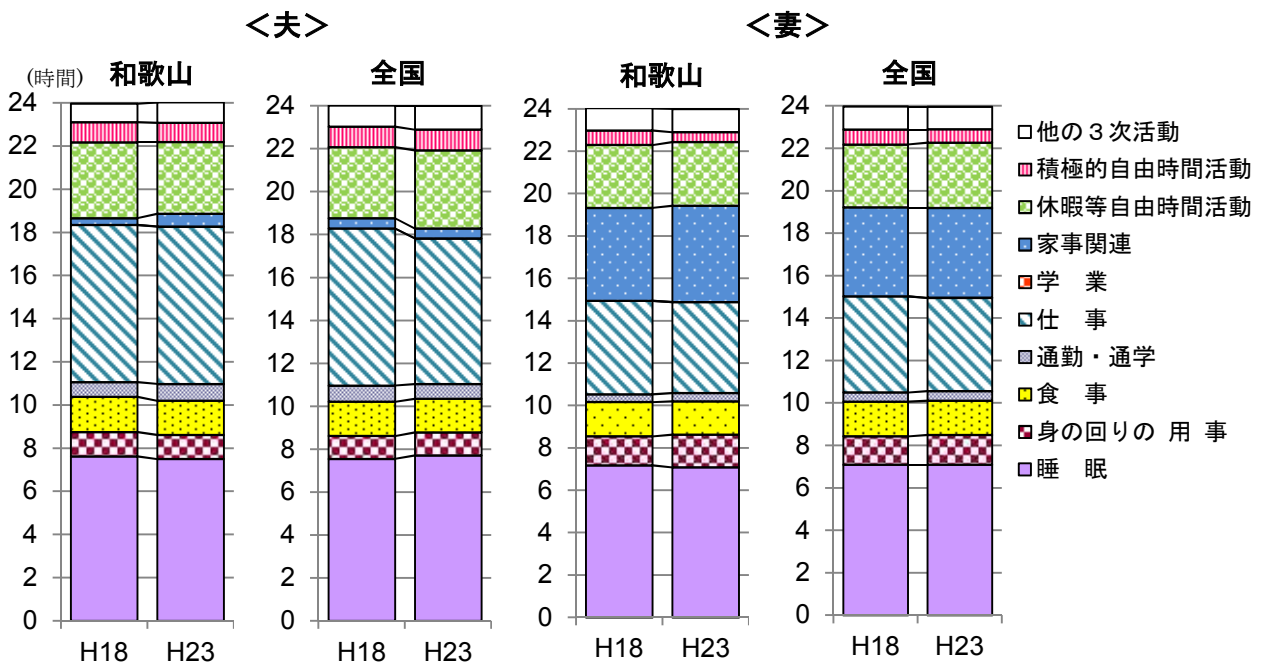
また、同一世帯の夫と妻の就業の有無でみると、夫は無業の場合、家事関連時間は有業の場合よりも多少長くなっているが、多くの時間は3次活動に費やしていることが分かる。

図 5-6 共働きか否か、行動の種類別行動の種類別生活時間（夫・妻）一週全体



平成 18 年と比べると、夫の仕事時間は減少し、家事関連時間及び休養等自由時間が 2 分増加している。また、妻は、積極的自由時間が 2 分減少し、家事関連時間が 2 分増加している。

図 5-7 行動の種類別総平均時間（共働きの夫・妻）一週全体



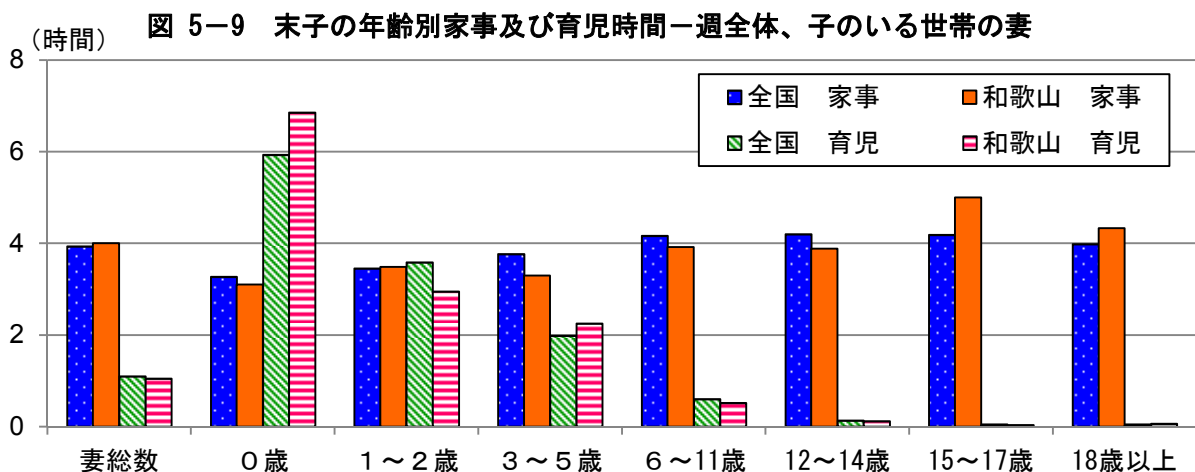
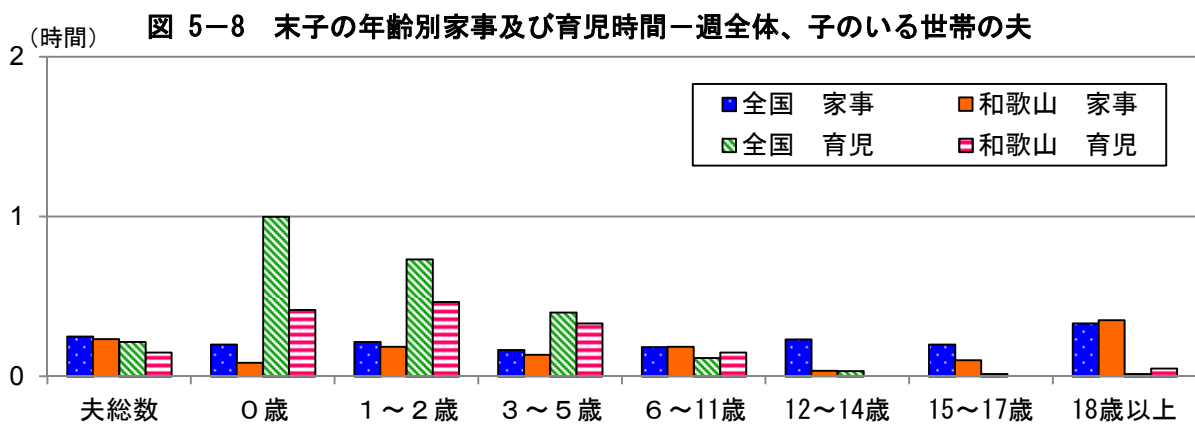
子のいる世帯の夫及び妻の家事及び育児時間（週全体）を全国と比べると、夫の家事時間は14分で1分短く、育児時間は9分で4分短い。また、妻の家事時間4時間で4分長く、育児時間は1時間3分で3分短い。末子の年齢別にみると、夫の育児時間は末子が0歳のときに全国より35分短く、妻の育児時間は55分長くなっている。

表5-1 末子の年齢別家事及び育児時間一週全体、子のいる世帯の夫・妻

(時間.分)

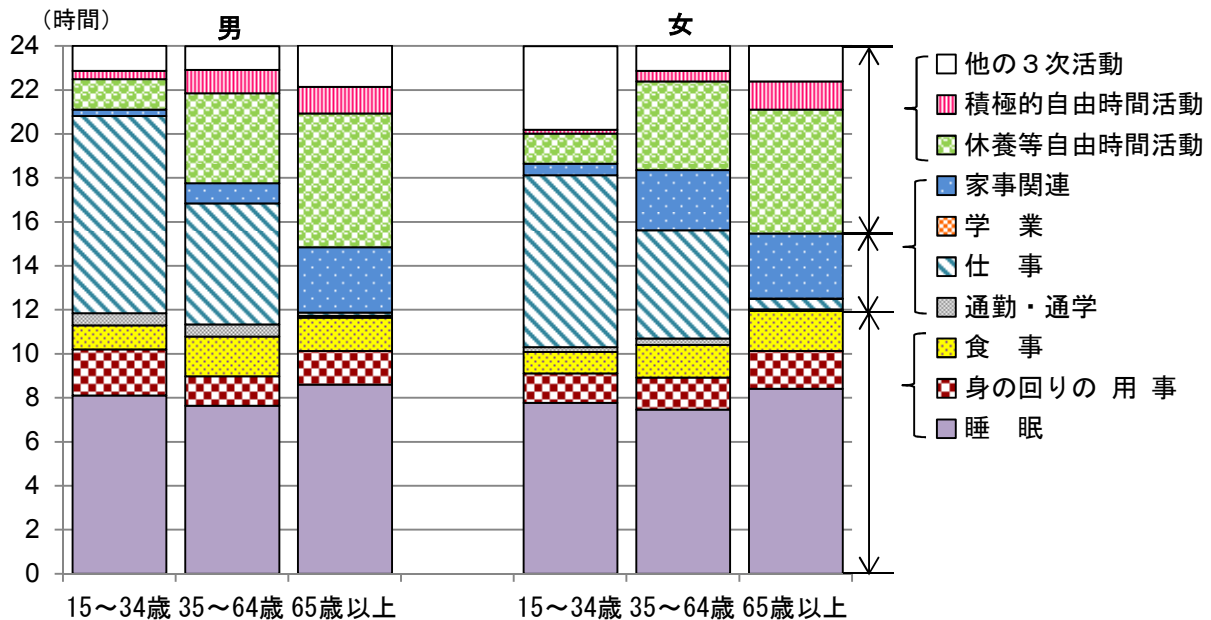
夫		総数	0歳	1～2歳	3～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上
家事	全国	0.15	0.12	0.13	0.10	0.11	0.14	0.12	0.20
	和歌山	0.14	0.05	0.11	0.08	0.11	0.02	0.06	0.21
	差	0.01	0.07	0.02	0.02	0.00	0.12	0.06	-0.01
育児	全国	0.13	1.00	0.44	0.24	0.07	0.02	0.01	0.01
	和歌山	0.09	0.25	0.28	0.20	0.09	0.00	-	0.03
	差	0.04	0.35	0.16	0.04	-0.02	0.02	-0.01	-0.02

妻		総数	0歳	1～2歳	3～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上
家事	全国	3.56	3.16	3.27	3.46	4.10	4.12	4.11	3.59
	和歌山	4.00	3.06	3.29	3.18	3.55	3.53	5.00	4.20
	差	0.04	0.10	-0.02	0.28	0.15	0.19	-0.49	-0.21
育児	全国	1.06	5.56	3.35	1.59	0.36	0.08	0.03	0.03
	和歌山	1.03	6.51	2.57	2.15	0.31	0.07	0.02	0.04
	差	0.03	-0.55	0.38	-0.16	0.05	0.01	-0.01	-0.01



単身世帯の世帯主の生活時間（週全体）を年齢階級別にみると、男女では、35～64歳の階級で家事関連時間に大きな差が見られる。また、15～34歳の女性は、他の年齢階級と比べ、交流・つきあいを含む他の3次活動の時間が長くなっている。

図 5-10 男女、行動の種類別生活時間—単身世帯の世帯主、週全体



単身世帯の世帯主のうち 35～64 歳の生活時間を平成 18 年と比べると、男性の仕事時間は 34 分増加し、休養等自由時間が 55 分減少している、一方、女性の家事関連時間は 12 分、休養等自由時間が 44 分増加している。全国と比べると、女性では仕事時間が長い一方、積極的自由時間や他の 3 次活動が短くなっている。

図 5-11 男女、行動の種類別生活時間（平成 18 年、23 年）
—単身世帯の世帯主（35～64 歳）、週全体

